



自伐型林業×副業により山あいの集落を活性化

～現代版「百姓」による持続可能なライフスタイルの創出～

いちのせきし

岩手県一関市は、令和5年度から地域おこし協力隊制度を活用し、自伐型林業と副業による中山間地域のなりわい創出に取り組んでいます。経済と環境を両立した小規模林業と地域資源などを活用した副業を組み合わせたなりわいをつくり、持続可能な里山暮らしの実現を目指しています。

現在、男性2人女性3人の隊員が、中山間地域の集落に住みながら、協力隊期間終了後も定住できるよう、林業の技術習得と副業の創出に励んでいます。



岩手県一関市 地域おこし協力隊員 丸谷 留奈さん(活動期間:令和5年度～)

令和5年7月に夫婦で広島から移住し、自伐型林業×副業というテーマで活動しています。

市が主催する自伐型林業の研修や視察への参加、資格取得、副業検討のための体験や調査を行っています。また、集落の空き家を改修しながら、伐倒、間伐材搬出、作業道開設などの作業に従事しています。今後は、実際に個人事業を運営し、経営に伴う収支や流れ、需要などを把握した上で課題・目標を設定し、更に具体的な事業計画を立てていきたいと思います。



自伐型林業の普及による森林保全と雇用の創出

～放置された森林資源の有効活用を目指して～

茨城県は、地域の課題をビジネスで解消しようと取り組む「茨城県北地域おこし協力隊【起業・複業型】」の一員として、林業の担い手不足の解消や後継者不足により放置された森林の整備を行う隊員を採用しています。

整備した森林や豊かな自然環境を活用したアクティビティやイベントを開催したり、地域住民や観光客等が交流できる場づくりを進めています。



茨城県日立市 茨城県北地域おこし協力隊員 神田 駿介さん(活動期間:令和5年度～)

地域課題や社会問題の解決に取り組みたいという思いから、東京の会社を辞め日立市に移住し、放置された森林の自伐型林業による整備と保全活動を行っています。また、地域の新たな雇用創出や移住者増加のために自伐型林業普及の活動、整備した森林を活用した体験イベント、地元でとれた木材を使った商品開発にも取り組んでいます。

今後は、自伐型林業普及のためのイベントや移住と自伐型林業と一緒に体験できるプログラムの企画、運営を行う予定です。この活動を通じて、小さな子供からお年寄りまでたくさんの人たちが様々な形で森と関わりをもち、地域で100年200年と続く持続可能な森づくりのサポートをしていきたいと思っています。



樵木林業の復興 ～自然との共生、持続可能な林業～

みなみちょう

徳島県美波町は、国の「SDGs未来都市」に選定され、美波町SDGs未来都市計画に基づき、様々な取組をしています。

中でも、江戸時代以前から受け継がれてきた環境負荷の小さい「樵木林業」の復興や木質バイオマスの利用推進により、豊かな環境と地域資源を磨き、地域経済の好循環が生まれるまちを目指しています。

樵木林業の実践を通じ、技術継承と強い産業づくりに寄与することを期待！



徳島県美波町 地域おこし協力隊員 小池 博志さん(活動期間:令和5年度～)

徳島県の県南地域でかつて行われていた「樵木林業」の研究会に所属し、町内の会社で施業を実践。主に備長炭の原材料となるウバメガシの伐採および搬出、窯での製炭作業のサポートを行い、里山の復興を行なっています。

樵木林業による森林の再生と循環をたくさんの人々に知ってもらいたいです。

協力隊の活動事例



「半林半X」で森林資源の活用事業を展開 ～森林と人をつなぐ取組み～

ゆすはらちょう

高知県梼原町は、「森林づくりは人づくり」を掲げ、持続可能な町づくりに取り組んでいます。木材生産林の循環のみならず、生態系や自然環境に配慮した広葉樹林への転換を図るなど、多様な森林づくりを追求すると同時に、その担い手となる人材育成を重視した活動を進めています。

地域おこし協力隊員には、梼原の森林・林業をフィールドとして田舎暮らしを実現いただき、町を担う人づくりに繋げています。



高知県梼原町 地域おこし協力隊員 下村 智也さん(KIRecub代表取締役)

しもむら ともや

きりかぶ

(活動期間:令和3年度～)

協力隊が中心となり、昨年度、有限責任事業組合「KIRecub」を結成し、さらに今年8月には法人化しました。町有林を中心に行き林業作業を実践するとともに、林業体験ツアーの実施や、地域の広葉樹の種を拾い、育てる苗木生産、レーザー加工による木工品の制作など、森林資源を活用した事業を展開する「半林半X」により、林業分野の新しい仕事のカタチを目指しています。

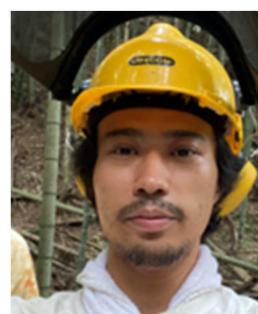


自伐型林業の推進に向けて地域おこし協力隊が活躍

～自伐型林業の普及や移住促進による中山間地域の活性化を目指す～

福井県では、自伐型林業による林業の推進と中山間地域の活性化を進めるため、令和5年度から全国初となる「自伐型林業大学校」を開校し、自伐型林業希望者の確保・育成を進めています。

隊員の主な活動としては、自伐型林業の実践のために林業関係の知識や技術を習得し、中山間地域の資源を活用した副業や地域活動の準備・実践を行い、3年後には自活できるモデルづくりを行っていただきたいと考えています。



福井県 地域おこし協力隊員 久々津 智哉さん(活動期間:令和5年度～)

くくつ ともや

地域おこし協力隊の隊員になる前は、デザイン事務所を設立し、中小企業向けにホームページなどを制作していました。現在は、自伐型林業大学校での研修を終え、県内の自伐型林業団体で林業技術の習得に取り組んでおり、林内での仕事を楽しんでいます。今後は、引き続き自伐型林業の実践を行うとともに、受け入れていただいている団体と協議しながら、中山間地域の資源を活用した「半X」にも取り組んでいきたいと思います。



長崎県のフォレストマスターとして木工教室でも活躍

～10月より起業し、林業の六次産業化を実現します～

しんかみごとうちょう

長崎県新上五島町は、九州の西端、長崎県五島列島の北部に位置し、中通島と若松島を中心とする7つの有人島と60の無人島から構成されています。

新上五島町では、地域おこし協力隊により、新たな視点での森林資源の活用を進めていきたいと考えていることから、森林組合での業務に従事しながら、技術・各種資格を取得し、任期終了後には、林業従事者として定住できる若者を求めています。



長崎県新上五島町 地域おこし協力隊員 田代 幸弘さん(活動期間:令和2年度～)

たしろ ゆきひろ

地域おこし協力隊に採用される前は、大工として木材を扱っており、林業に関しては全くの未経験でした。協力隊に採用後、森林組合での業務に従事しながら、森林資源の有効活用に取り組んでいます。

また、任期終了後は定住・起業し、町の特用林産物である椿を利用した木工や椿炭を中心に、林業に携わる活動を展開予定です。

(本年10月に任期終了)



協力隊の活動事例



農山漁村から考える 持続可能な森づくり ～古くて新しい素材「経木(きょうぎ)」プロジェクト～

ふだいむら

岩手県普代村は、村域の約9割を山林が占めており、コナラやミズナラをはじめとする広葉樹のほか、地域ブランド材である南部アカマツも多くみられます。しかし、林業に関心のある人が少なく、森林資源が有効に活用されていないため、適切に管理されていない山林が多いといったことが課題となっていました。

そこで、地域おこし協力隊制度を活用し、地域の豊富な山林資源を活用した林業の魅力発信による関心の向上や生業の創出等に取り組んでいます。



岩手県普代村 地域おこし協力隊員 伊藤 あゆみさん(活動期間:令和4年度～)

環境保全と経済性の両立を目指し、普代村の山から得られる資源を活かした林業の体制づくりに取り組んでいます。その一環として、自身が森林整備で伐り出した材や、県産材を使った経木(きょうぎ)の製造を始めました。日本の農山漁村が、かつて自然と共生しながらサステナブルに生きてきた智慧・技術を、現代の視点からもう一度捉えなおし光を当て、持続可能な森づくり、地域づくりに貢献していきたいという想いをもって、岩手県普代村から、実践、発信しています。



地元産木材を使った木製品(小物)の製作で地元へ貢献

～木製品(小物)を暮らしの中に～

やいたし

栃木県矢板市は、日光国立公園の一部となるまちのシンボル「高原山」の麓に広がる森林や里山に囲まれる、美しい水と自然に恵まれた場所です。

地域おこし協力隊の隊員には、市有林や市管理林道、市受託山林等の管理活動、その他林業振興全般に係る業務や、農山村振興関連の地域活動への支援、農山村での事業継承の調査活動を担っていただいている。



栃木県矢板市 地域おこし協力隊員 室井 拓也さん(活動期間:令和4年度～)

林道の維持管理やスギ・ヒノキの忌避剤の原料となる激辛唐辛子の栽培・加工、木製品(小物)の製造販売をしつつ、矢板市内の就学前施設や矢板高校にて、木を使ったワークショップを実施しています。地元果樹の木材を使った「木軸ペン」を製品化したため、今後は販路拡大を行うとともに、ヤマザクラ等の広葉樹を使った木製食器の製品化も行っていく予定です。



町産材の循環利用を促進して地域の林業振興に貢献

たがちょう

滋賀県多賀町は、滋賀県の東部に位置し、町面積の約86%を森林が占める自然豊かな町です。

地域おこし協力隊の隊員には、地元産木材を地元で循環させようと設立された多賀森林循環事業協同組合に所属してもらい、組合のコーディネイトや運営の業務を行うとともに、太陽光を利用した木材乾燥施設の運用、木材加工や木のおもちゃなどの開発・製作の業務に携わり、多賀町の林業の振興に繋がる活動をしていただいている。



滋賀県多賀町 地域おこし協力隊員 竹廣 直久さん(活動期間:令和5年度～)

滋賀県立大学の研究室と共同で、格子耐力壁の耐久実験や木製ハウスの設置・販売戦略の立案を行っています。また、林業アカデミーで専門的な内容を学び、地域の森林管理に役立てていこうと思っています。その他、机の天板、赤ちゃんの足形や手形のカフェタイルなど、多賀町の木材を活用した製品を開発・製作し、多賀町の皆さんに喜んでいただけるようにしていきたいと考えています。

協力隊の活動事例



木工施設「iroMori」で若年層の担い手を育成 ～森町の木材と文化の未来を創造する～

北海道森町は、トドマツ、カラマツ、スギの3種の道産針葉樹の特徴を活かし、地域おこし協力隊による新商品の開発とブランド化を推進。

町民向けに木工サポートや木育ワークショップを実施し、木材の魅力とクリエイティブなものづくりへの関心を高める取り組みにも力を入れています。



北海道森町 地域おこし協力隊員 小川 航輝 さん(活動期間:令和4年度～)

町産木材の利用を広めていく役割を担う木工施設「iroMori」の運用管理および木育イベント企画を実施しています。また、道南スギの普及に向けて木製カヌーの技術を受け継ぎ、「道南スギカヌープロジェクト」として商品開発、普及活動を行っています。

将来は、「iroMori」を活用して、町に滞在しながらカヌーの製作に取組む、滞在観光型の町にしたい、と考えています。



森林サービス産業で地域おこしに取り組む～新たな森林の利活用「テントサウナ」～

あげまつまち

長野県上松町は、木材産業を中心とした成り立ちを持つ森林の町であり、現在も、木の文化を中心に据えた地域づくりを進めています。“森林浴発祥の地”と言われている町内の赤沢自然休養林を含めた施設・エリアは「森林セラピー基地」として認定を受けており、医学的にもリラックスできることが実証されています。

町として重要な森林資源のひとつと位置づけており、隊員の活躍により、森林サービス産業による地域おこしに取り組んでいきたいと考えています。



長野県上松町 地域おこし協力隊員 宮原 未来さん(活動期間:令和2年度～)

「赤沢自然休養林」でのサウナ体験を提供しています。森林の中での外気浴は、五感全てでその恩恵を感じられる贅沢な時間。サウナを通して、より自然を感じてもらうべく、町おこしに活かしています。サウナをきっかけに赤沢自然休養林に訪れてくれる人が一人でも増えることを目標にしています。



伝統文化「時山炭」の保存・継承

～24時間燃え続ける「チンチン炭」を目指して～

おおがきし ときやまちく

岐阜県大垣市の時山地区は、広大な広葉樹林を基に生産される良質な「時山炭」が地域経済を支えていました。しかし、高度経済成長以降の燃料革命により製炭業は急速に衰退しました。

時山炭の伝統的な製法を守り、後世に継承するため結成された「時山炭保存会」と共に地域おこし協力隊の中村さんが精力的に活動しています。



岐阜県大垣市 地域おこし協力隊員 中村 明弘さん(活動期間:令和4年度～)

岐阜県の西南端に位置する上石津町時山地区において、かつて盛んに生産されていた、「時山炭」の伝統を受け継ぐため、地域住民で組織する時山炭保存会から技術指導を受け、製炭作業に携わっています。

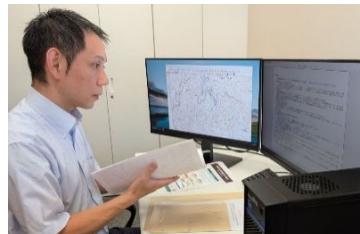
①一人で炭づくりができ、自活できること ②24時間燃え続ける「チンチン炭」をつくること ③伐採により風と光を入れて元気な森にすることを目標に活動に取り組んでいます。



森林経営管理制度の推進に向けて地域おこし協力隊が活躍

ふくいし
福井県福井市では、100年先の未来を見据えた健全な「森づくり」、次世代を担う多様な「人づくり」、資源の循環利用による「地域づくり」を目指し、森林経営管理制度を推進するため地域おこし協力隊を採用しています。

採用された隊員は、経営管理権集積計画の作成等を行い森林を森林所有者から担い手へ森林管理をつなげるとともに、地域の団体に所属し、地域の活性化にも取り組んでいます。



福井県福井市 地域おこし協力隊員 林 宗和さん(活動期間:令和6年度~)

企業受入れ型の地域おこし協力隊として、(一社)やましごと工房ふくいと雇用契約を結び、森林の集積や、地域の活性化に係る活動を行っています。現在は、主に集積計画の業務を学びながら進めているところです。

自治体や地域活性化活動団体に対して私がお手伝いできることを増やしていき、地域の森林や資源の活用を促進するための力に、少しでもなればと思っています。



地域の森を次世代につなぐ地域フォレスターとして活動

～地域の森林ビジョンの推進役を目指して～

もとやまちょう

高知県本山町では、森林・林業ビジョンである「土佐本山コンパクトフォレスト構想」を策定しました。当ビジョンを基盤として、本町における持続的な森林管理、林業の活性化、新たな森林・木材の活用を進めています。当ビジョンの取組み項目の一つである「本山町フォレスターの募集と育成」を進めていくため、地域おこし協力隊(地域フォレスター)を採用しています。



高知県本山町 地域おこし協力隊員 石川 友博さん(活動期間:令和5年度~)

地域の森林を持続的に管理するため、地域全体を長期的な視点で森林を捉えてマネジメントする地域フォレスターとして活動しています。地域の人や森林について学びながら、本山町の森林・林業ビジョンの取組みに携わったり、現場の労働安全向上に取り組んだりしています。

退任後は、自分の得意分野を活かして本山町の森林・林業に関われる事業を展開したいと考えています。



地域力の維持・強化を推進

～森林・林業のすばらしさを若者に伝えたい～

ちくじょうまち

福岡県築上町では、「体験型地域おこし協力隊」を募集しています。採用された隊員は、町内にある20以上の地域活動やナリワイを1年目に体験し、その仕事の面白さや難しさを感じながら、地域を知り、まずは地域の方々と仲良くなっています。2年目以降は、隊員と地域住民との関係をさらに深め、体験活動の中から地域住民と一緒にできる地域活動に取り組んできました。そして、今年で3年目となる隊員は、森林組合で従事した経験を活かし、肌で感じた森林や林業の魅力を広くPRするための様々な活動を行っています。



福岡県築上町 地域おこし協力隊員 小俣 元稀さん(活動期間:令和3年度~)

体験型地域おこし協力隊として、任期2年目から豊築森林組合に従事しました。

2年目は「林業とは何か」を知るため、実際に山に入り現場仕事と事務仕事を経験しながら情報発信を行い、2年目の終わりには「森林や林業について学んだことを伝える」ことを目的とし、町民向けの木製スプーンづくりワークショップや小学校での「参加型出前授業」を実施しました。

3年目の現在は豊築森林組合のPR映像を制作中です。

(本年11月に任期終了)